

「2020 原発のない福島を！ 県民大集会」 実行委員長挨拶

福島は、原発事故から10度目の春を迎えています。

この集会も、9回目を迎えました。今年の集会は、新型コロナウイルスの感染が拡大する状況の中で、感染拡大防止のため中止といたしました。私たち実行委員会の呼びかけに呼応し、集会参加を予定されていた方々には、お詫びを申し上げます。

これまで、この集会は「東電福島第二原発の廃炉を実現しよう」とアピールしてきました。そして、皆さんから多くの賛同をいただき、昨年夏に、東京電力が、福島第二原発の廃炉を正式に発表するに至りました。私たちの運動の大きな目標の一つが達成され、私たちの運動も、大きな一歩を踏み出すことができました。

福島のすべての原発が廃炉となったとはいえ、廃炉完了までには、まだまだ長い年月を要し、幾多の困難も想定されます。

被災した自治体は、故郷の「復興」を進めてきました。道路や建築物など、見た目には「復興」進んでいますが、そこには、まだまだ人々の生活が戻ってはいません。今も、約4万1千人の人たちが避難生活を強いられています。また、故郷に戻った人たちも、原発事故前の生活を取り戻すことはできません。この3月にも、一部帰還困難区域の避難指示が解除されました。形だけは進んでいきますが、そこには「生命」が宿っていません。むしろ、被災した人たちが取り残されていく現実もあります。

被災者の生活再建は、様々な課題を抱え、新たな分断や差別が生まれ、生活困窮者も出ています。帰還していようが、避難を続けようが、どこに住んでいようが、生活再建の補償は同一であるべきです。国と東京電力には、生活再建支援を継続して充分に行うよう訴えます。また、1年後には、原発事故10年経過による賠償請求期限も迫っています。引き続き賠償請求を可能とするよう、国に対して、「賠償請求権の消滅時効期間の再延長」を強く求めます。

福島の農林水産業を中心とする生産者は、この9年間、風評とたたかい、農業では、安全と信頼を高め、さらに品質向上の努力を積み重ねてきました。水産業では、試験操業を続け、時間をかけて安全と信頼を高め、この2月末には、出荷制限を受ける県沖の魚介類はゼロになり、全魚種の出荷が可能となりました。福島県内の山は、少しずつ手入れが始まっています。しかし、森林除染はされておらず、いまだに山に入れられない地域もあります。シイタケ原木は、会津の一部でやっと出荷ができるようになったもの、阿武隈山系では生産できない状態が続いています。山の手入れができないことで、山の幸と共に生活してきた文化に大きな影響が出ています。観光、旅館、ホテル関係の従事者も、福島の観光PRに取り組み、風評とのたたかいが続いています。会津地方では、海外からの観光客が増えているものの、教育旅行は原発事故前の73%しか回復していません。浜通りを訪れる観光客は伸びず、旅館、ホテルの経営も厳しい状況です。

原発事故の後遺症は、健康問題を含め、様々なところにたくさん残っています。福島に住む私たちは、そういった状況の中で、努力をしながら築き上げた基盤の上で暮らし、生業を立てているのです。そして、長期に及ぶ廃炉作業の工程で、いったん問題が発生すると、これまでの努力が失われかねない状況の中で生活しているのです。このことを忘れてはなりません。

そして今、これまでの努力が失われかねない状況が起こっています。福島第一原発の事故収束もまだまだという状況の中で、トリチウム等を含むアルプス処理水(トリチウム汚染水)の海洋放出問題が、緊急の課題として出ています。もし、海洋放出が行われるようなことになれば、福島の地に暮らす私たちは、再び大きな被害を受けることになります。生活再建、ふるさとの復興、風評被害からの脱却に向けて取り組んできたこれまでの努力が、振り出しに戻ってしまいます。とりわけ、漁業関係者にとっては、試験操業から本格操業に向けた重要な時期にあり、極めて重大な問題です。また、風評と新型コロナウイルスによって苦しめられている福島の観光、旅館ホテル従事者にとっても死活問題です。大気放出ということになれば、農業、林業関係はもちろん、多くの人々の生活そのものに重大な影響を及ぼします。

このトリチウム汚染水の海洋放出問題は、原発事故の後遺症を克服する努力を積み重ね、築き上げてきた生活基盤を揺るがす重大な問題であり、県民が無関心ではいられない問題です。さらには、自然界はつながっていることから、福島県だけの問題にはとどまらず、全国的な問題でもあります。

私たち実行委員会では、この問題について議論し、「トリチウム汚染水の海洋放出に反対する署名」(仮称)の取り組みを行うこととしました。現在、準備を進めています。署名実施の体制が整い次第、署名協力をお願いもさせていただきたいと思えます。

私たちは、原発事故によって引き起こされているこのような現状・現実を受け止め、多くの人と共有することが重要と考えています。これからも、福島で行う集会だからこそ取り上げられる「福島の現実と課題」を発信し、「原発のない福島」を目指していきます。

今回は、集会を開催することができませんでしたが、多くの皆さんに、「福島の現状」「福島の思い」「福島の努力」を受け止めていただきたいと思います。

再びこのような原発事故・過酷災害を起こさせないために、力を合わせて「原発のない福島」「原発のない社会」をつくっていきましょう。

よろしくお願ひします。

2020年3月14日

「2020原発のない福島を！県民大集会」
実行委員長 角田 政志